

令和3年度基礎学力調査結果の概要について

1 調査の目的

児童生徒の基礎的・基本的な知識・技能や活用力の定着状況、及び学習・生活状況について把握・分析し、学校における児童生徒への指導の改善を図る。併せて、教員の指導状況等を把握し、指導法の改善に役立てる。

2 調査の対象

(1) 児童生徒に対する調査

○ 教科に関する調査

全公立小・中学校（義務教育学校を含む）における次の学年の全児童生徒を対象に調査した。

ただし、調査の集計・分析については、各学校対象学年から無作為に1学級ずつを抽出して行った。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実施校数	201校	201校	84校
実施児童生徒数	9,171人	9,050人	9,058人
対象教科	国語・算数	社会・理科	社会・理科・英語
調査問題の範囲	小学校3年生までに学習した内容	小学校5年生までに学習した内容	中学校2年生までに学習した内容

○ 質問紙調査

教科に関する調査における集計・分析の抽出学級（各学校対象学年1学級）の児童生徒を対象に調査した。

区 分	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
実施児童生徒数	4,327人	4,715人	2,441人
調査の内容	学習に対する意識や家庭学習、生活習慣などの状況等に関する内容		

(2) 教員に対する調査

○ 質問紙調査

抽出した小・中学校（義務教育学校を含む）における教員を対象に調査した。

区 分	小学校	中学校
実施校数	67校	32校
実施教員数	1,090人	676人
調査の内容	授業における指導状況等に関する内容	

3 調査の日時

令和3年5月26日（水）

区分	時限	小学校第4学年	小学校第6学年	中学校第3学年
教科に関する調査	1限	国語（40分）	社会（40分）	社会（45分）
	2限	算数（40分）	理科（40分）	理科（45分）
	3限			英語（45分）
質問紙調査	提出日までに、各学校の状況に応じて実施			

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果

項目	小学校第4学年		小学校第6学年		中学校第3学年		
	国語	算数	社会	理科	社会	理科	英語
平均正答数(問)	17.5 /25	17.0 /23	20.2 /31	15.9 /25	18.8 /33	18.9 /34	15.6 /30
平均正答率(%)	69.9	73.8	65.1	63.6	57.0	55.7	51.9
令和元年度比	+4.7	+0.9	-5.3	-0.3	-1.6	+1.0	

※令和2年度の県基礎学力調査は、新型コロナウイルス感染症の学校教育への影響等を考慮し、実施していない。

※英語は、令和元年度、全国学力・学習状況調査で実施され、県基礎学力調査では実施していない。

(2) 作問の工夫と調査結果の主な関連

令和元年度までの調査結果から明らかになった課題や新学習指導要領で求められている力を踏まえ、活用を問う設問において、児童生徒のより深い思考力をはかることができるよう作問の工夫をした。

ア 小学校第6学年 社会

地図帳を利用した「我が国の西端の位置」の設問では、地図帳から経度を正しく読み取ることについて、新たな課題が見られた。また、複数の資料を関連付けて考察し、表現することについては、引き続き課題が見られた。

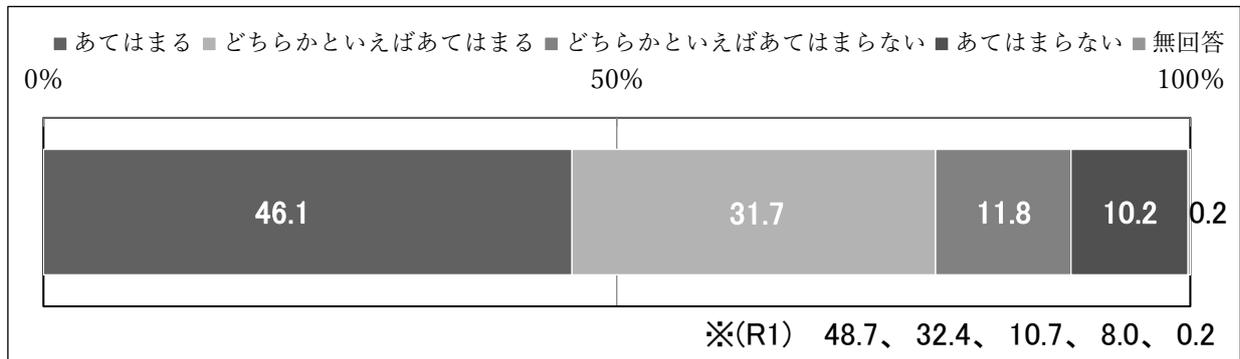
イ 中学校第3学年 理科

「化学変化」の設問では、化学変化をモデルや化学反応式で表すことに改善が見られた。しかし、「電流と磁界」の設問では、導線に流れる電流がつくる磁界の向きを理解することについて、引き続き課題が見られた。

(3) 質問紙調査結果 (抜粋)

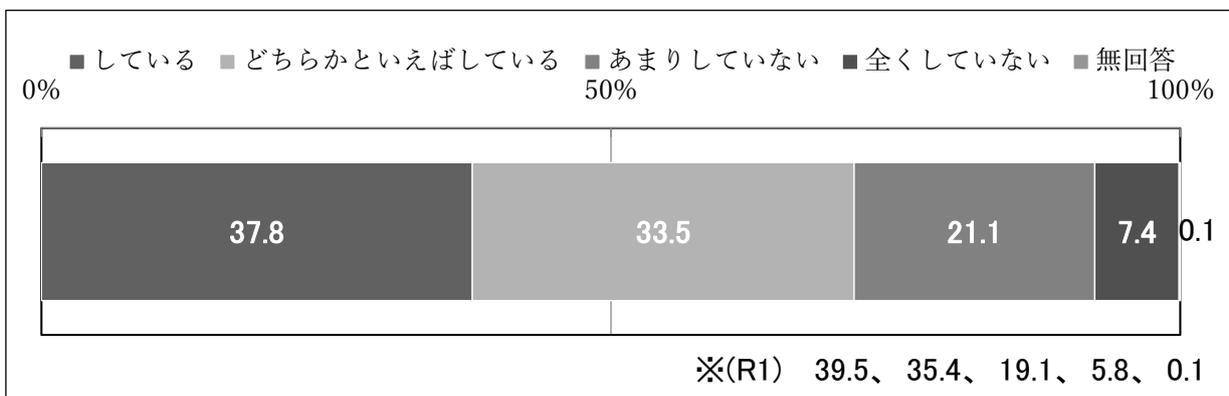
自尊意識・規範意識等に関すること 【小学校第4学年児童対象】

○自分には、よいところがある



学習に関する関心・意欲・態度 【小学校第4学年児童対象】

○自分で計画を立てて勉強している



教科等に関する指導 【教員対象】

○授業の最後に、学習したことを振り返る活動を取り入れている

